

2019年度(2019年4月~2020年3月)の動き

Topics

Topics 1

緩和医療センターの開設

がんや重症心不全などの病気で治療中の患者さんが抱える様々な苦痛に対して、緩和ケアという側面から多職種が連携してサポートする部門として、2019年4月1日に緩和医療センターが開設されました。

かつては「緩和ケア＝病気の治療法が無くなった方の終末期ケア」と認識されていましたが、現在では、病気の診断を受けた時点から病気の治療と並行して早期に緩和ケアを取り入れ、患者さんやご家族の苦痛を緩和しながら治療や療養が行われるようになっていきます。本院では2004年から緩和ケアチームを立ち上げ、主にがん患者さんを対象に痛みなどの症状や気持ちのつらさなどの緩和に取り組んできましたが、緩和医療センターを開設することにより、より多くの患者さんやご家族のニーズに対応し、また重症心不全など、がん以外の病気の方に対する緩和医療にも積極的に取り組んでいくことをめざしています。医療の高度化と共に緩和医療もますます重要性を増してきており、2019年度も多くの患者さんに緩和医療を提供させていただきました。今後もより一層本院の緩和医療を充実させていく予定です。



●センターを構成する3つのチーム:写真上から「がん緩和ケアチーム」「心不全緩和ケアチーム(心臓チーム)」「小児がん緩和ケアチーム」

Topics 2

ドクターカー・DMATカーを導入しました。

長年待ち望んでいたドクターカーおよびDMATカーが令和2年4月より本院に導入されました。これは大阪府の平成31年度救急患者等搬送体制整備事業によるもので、すでに運用しているドクターヘリとともに、今後の救急医療や災害時の活動に貢献することが期待されます。

ドクターカーは医療機関が所有し、医師が救急現場へ出動する緊急自動車で、119番通報を受けた消防機関からの要請によって出動することが一般的です。医師が患者を診察するまでの時間を短縮し、救急現場でいち早く治療を始められることが利点です。他に、重症患者を、他の医療機関と本院間で搬送する場合にも大いに役立ちます。

DMATカーはDMAT(災害派遣医療チーム)が使用する災害時用の緊急自動車です。阪大DMATはこれまでに多くの災害の際に被災地へ出動しましたが、専用の車両がなかったために隊員の派遣に苦労してきました。今回導入するのはワンボックスカータイプの車両で、ドクターカーと連携して災害時の多様な活動に対応できるようになります。

ドクターカー、DMATカーを運用するために救急救命士の資格を有する3名が4月より着任しました。緊急自動車の運転とともに高度救急救命センターでの初療などに携わります。



●ドクターカー



●DMATカー



[エントランスホール]



[オープンテラス]



[患者図書コーナー]



[正面玄関]



[病棟・診療棟外観]

Osaka University Hospital through Photographs 写真で見る大阪大学医学部附属病院



[特定集中治療室(高機能ICU)]



[血液浄化部]



[ドクターヘリ]



[小児医療センター]



[ホスピタルパーク]



[高精細画像CT]



[入退院センター]



[手術支援ロボット ダヴィンチ]



[高度救命救急センター 血管造影室]



[オンコロジーセンター棟抗がん剤調製室]



[治験コーナー・臨床研究相談窓口]